



社務所 *a shrine office*

南日本新聞記事 (H30.2.20)



諏訪神社(薩摩)の社務所新築 訓練生挑戦
伝統工法に
訓練生挑戦

17人が、修了前の姿として昨秋取りかかった。建材は住民らが持ち寄った杉、ヒノキ、カシ、椎から訓練生の手で行ったという。それら大工として果立つまで、設計や指導を担う上村大作(39)は「伝統工法の実践や、木の文化や職人の経験を学べるのは貴重」と話す。

県内のハウスメーカーに就職する榎元雅洋さん(20)は「手による加工がほとんどで、大変だが、目に見えるおもしろい。地元の人手不足もなにより心配だ」と話した。

3月中旬までに建物の完成を目指す。窓や戸の建具は同校の室内造形科引き継ぎ(本坊)で、



伝統工法で社務所手掛ける
宮之城高等技術専門校生

宮之城高等技術専門校(宮之城)の建築実習生17人は、11月から現地に入り、諏訪神社の社務所新築を手掛けた。また、室内造形科2年生4人が窓や戸の建具製作を担当して、近づくにつれて、学生たちは図面を基に、柱や柱を横木で貫き、みを取り組むなど、伝統工法(貫工法)を駆使しながら、反り屋根や格子天井、鷹渡(とやぶ)と呼ばれる建築装飾(じきょう)も製作。材料は地元有志から無償で提供してもらい、1本1本を現場で見学しながら適材適所に使用した。全てを学生の手作業で行うことで、学生にとって伝統の技術を知る貴重な経験となった。

4月から鹿屋市の黒松製材建設に入社する榎元雅洋さん(20)は「現場では、お話を伺った通り、多くの地域住民から世代にわたって『いきたい』と抱負を語った。

鹿児島建設新聞記事 (H30.3.9)



「人が利用するところなので丁寧な加工を心掛けた。完成に近づくと達成感が湧いた。今後は、地域の建設業者からもボランティアで周辺整備をしてみたい」と話した。

6月5日、地元の有志から、建設費の一部を助成していただき、現場では、お話を伺った通り、多くの地域住民から世代にわたって『いきたい』と抱負を語った。

■Data
 建築主/ 斧洲地区諏訪神社改築建設委員会
 会長 桑波田景美
 施工主/ 斧洲地区諏訪神社改築建設委員会
 場所/ 薩摩川内市東郷町斧洲字宮原6402-3
 種別/ 諏訪神社社務所新築工事
 面積/ 20㎡

■Schedule
 工期/ 平成29年10月 ~ 平成30年3月

■Trainee
 大工工事/ 建築工学科 12期生
 建具製作/ 室内造形科 24期生

